



# Environmental Report

## 環境保全の取り組み

— 地球にも人にも優しい環境企業を目指して —



**トヨタ自動車北海道株式会社**

# 2023

# 目次

	ページ
1. ごあいさつ	・・・ 2
2. 方針・プラン	・・・ 3
3. ステークホルダーエンゲージメント	・・・ 5
4. 環境保全の取り組み体制	・・・ 6
5. 異常苦情ゼロへの取り組み	・・・ 9
6. CO <sub>2</sub> 排出量の低減	・・・10
7. 省資源・3Rの推進	・・・13
8. 自然・生物多様性の保全活動	・・・14
9. 地域の方々と共に	・・・15
10. パフォーマンスデータ	・・・16
11. 会社概況	・・・19

当報告はISO14001認証範囲と同じくトヨタ自動車北海道(株)を範囲とし、2022年4月～2023年3月の環境活動実績を報告するものです。但し一部の指標は2022年1月～12月の集計としています。  
当報告は環境省発行の環境報告ガイドライン2018年版を参照していますが、独自基準で作成しています。

## 私たちトヨタ自動車北海道は

北海道 『北海道環境宣言』に賛同しています  
北海道 『北海道グリーンビズ認定制度』において、  
「優良な取組」部門 ランク3に登録されています  
(環境マネジメントシステムの認証取得)  
「創意あふれる取組」部門 3分野で認定されています  
(地球を守る心・もったいない心・自然と共生する心)  
「先進的な取組」部門 CO<sub>2</sub>削減分野で認定されています  
苫小牧市『ゼロカーボンいぶり@苫小牧』に参加しています

SDGsへの貢献



# 1.ごあいさつ

## 脱炭素化社会を牽引すべく持続可能な企業活動を行います

私たちトヨタ自動車北海道は、お客様に安心・安全・快適な製品を提供する事はもちろん、地域社会・地球の持続可能な発展に貢献する企業でありたいと考え環境保全活動を事業の中核に据えた経営を行っています。

具体的には、全社一丸となった徹底的な省エネの推進、再生可能エネルギーの導入や水素の利活用の検討を進めて、2035年にカーボンニュートラルを達成する目標としています。また、循環型社会の構築を目指した廃棄物の低減やゼロエミッションの継続、CSRの観点から環境負荷物質の管理や環境異常の発生に備えた処置訓練などを行っています。これら環境負荷を低減する活動に加え、身近な緑化活動や地域企業の皆様とのカイゼン活動を通じて、持続可能な企業活動を目指しています。

本報告書では、こうした当社の環境保全の取り組みと成果についてご報告いたします。



環境保全統括者  
専務取締役 吉田 雄二

# 2.方針・プラン

## ■トヨタ自動車北海道（株） 環境方針

『地球にやさしい企業』として、一人ひとりが自覚と責任を持ち、環境保全活動に積極的に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）の目標・ターゲット達成に貢献します。

1. 地域社会とのコミュニケーションを大切にし、北海道の豊かな自然との共生と生物多様性を保つための活動を積極的に推進します。
2. 環境法令や協定、基準の遵守はもとより、地球環境の汚染予防及び継続的な改善を行い、地域のリーディングカンパニーを目指します。
3. 環境影響を最小化するために、目的・目標を定め積極的に取り組みます。
  - ①工場CO2ゼロを目指し、日常改善・技術革新・再生可能エネルギー利用を推進します。
  - ②ゼロエミッションを維持し、循環型社会の形成を推進します。
  - ③生産活動の環境影響を評価し、環境負荷物質を低減します。



### 『トヨタ環境チャレンジ2050』

新たな地球温暖化防止の枠組みであるパリ協定が合意された2015年に、トヨタ自動車（株）は3つのゼロへのチャレンジと3つのプラスへのチャレンジを発表しました。

当社はトヨタのものづくりの拠点として、この『トヨタ環境チャレンジ2050』を推進し、SDGsの達成へ貢献します。



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

# 2.方針・プラン



## ■トヨタ自動車北海道（株）環境取り組みプラン

当社は、環境方針を遂行するために下記の環境取り組みプランを策定しています

環境取り組みプラン		活動内容
持続可能な開発目標の達成に向けた生産活動	公害の防止	公害防止に関する法規の確実な遵守 / 自主基準値の設定と遵守
	地球温暖化の防止	日常改善と低CO2技術の開発・導入によるCO2低減活動の推進 再生可能エネルギーの導入・利用
	排出物の低減	排出物低減技術の開発・導入と日常改善による排出物低減活動の推進 金属くず等発生量低減活動の推進
	水使用量の低減	日常改善による水使用量低減活動の推進
	環境負荷物質の低減	化学物質の事前検討及び管理の徹底
	物流効率化の推進	輸送効率の改善及び荷姿の軽量化
自然との共生	自然・生物多様性の保全活動の推進	森林保護活動の推進 / 工場緑地の保全・拡大
社会貢献活動	社会貢献活動の推進	環境保全活動への支援・参加 / 地域とのコミュニケーション
関係各社との連携	関係各社との連携	トヨタ自動車との連携強化 / 取引先への環境保全への理解活動
積極的な情報開示と啓発活動	広報活動・情報開示	環境方針、目標、新技術の公開 / 広報資料、環境施設の公開
	啓発活動	社内環境教育の充実 / 環境月間・省エネ月間

# 3.ステークホルダーエンゲージメント



## ■ステークホルダーとの関わり

当社は、ステークホルダーの皆様のご意見を聞き、環境経営の方向性を検討しています

ステークホルダー	ステークホルダーへの主な責任	主な対話の方法・機会（2022年度、環境を主眼に）
行政 （官公庁・自治体）	法規制・条例・協定値の遵守 行政指導の遵守 課題解決への諸政策への協力	各種測定値の報告、環境負荷設備などの設置廃止等の申請 公害防止訓練への参加 / 立入検査、見学などへの協力 各種協議会、連絡会への参加、課題共有
トヨタ自動車株式会社 （株主）	環境異常苦情ゼロ 環境チャレンジ2050 BCP対応	オールトヨタ各種会議体への参加 異常苦情案件の情報共有 CO <sub>2</sub> 発生量、再生可能エネルギー率、廃棄物発生量などの報告
地域社会	環境情報の開示 自然環境保護、維持、改善	地域懇談会の実施、工場見学の受け入れ 地域イベントへの参加 植樹、工場内緑化の実施及びその公開。地域清掃活動への参加 ホームページでの情報公開
取引先	適正な価格・納期管理 社内活動時の環境維持教育	日常の調達活動を通じての会話 取引先の訪問 取引先を招いての異常処置訓練
従業員	環境意識の高い人材の育成 多様な人材が活躍できる職場 活躍の適正な評価	階層別教育、処置訓練など教育機会の提供 省エネ月間・環境月間・環境かわら版・サイネージによる情報伝達 省エネ改善提案などの評価
自動車を購入いただくお客様	省燃費な製品の提供 低環境負荷の製品提供	トヨタ自動車を通じ、多様な移動の選択肢を提供

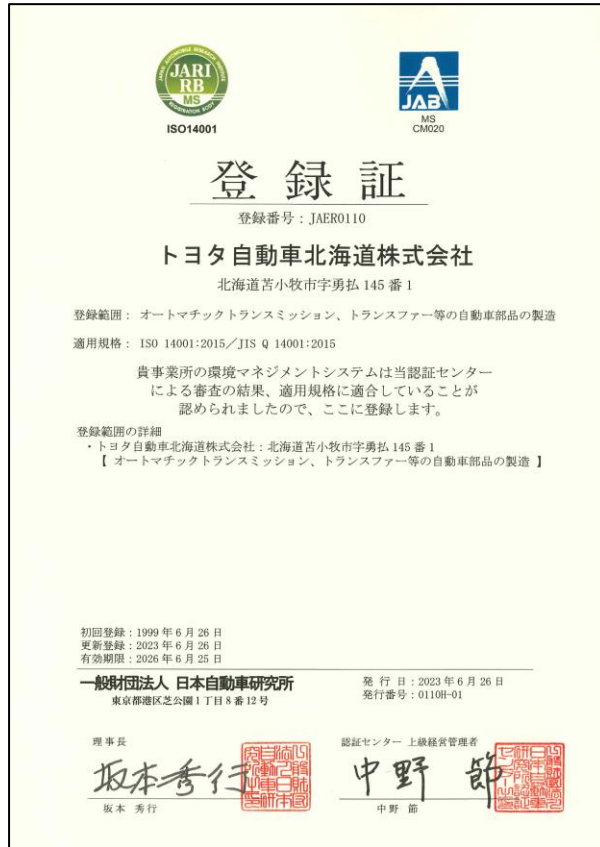
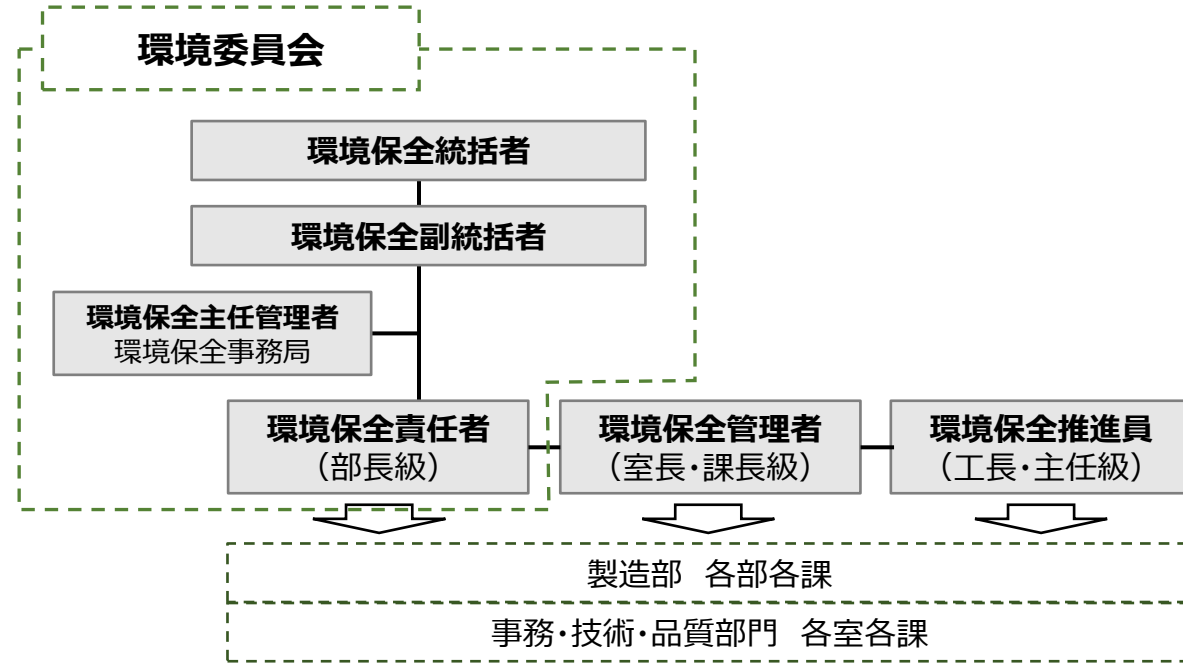
# 4. 環境保全の取り組み体制



## ■ 環境保全推進体制

当社は環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001を1999年に認証取得しています。

環境保全活動は環境保全統括者を筆頭に表記の体制で推進し、ステークホルダーの皆様へ安心と信頼され続ける企業を目指します。

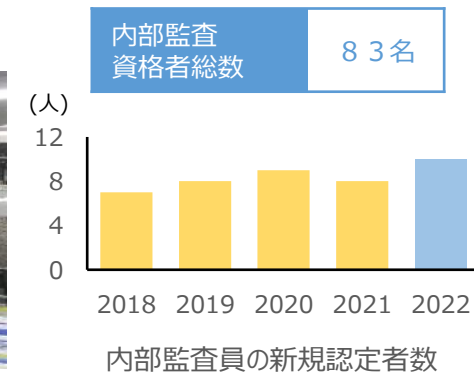


環境保全活動のPDCAが廻っているかを確認するために毎年内部監査と外部審査を実施しています。また、内部監査員の教育は外部機関に依頼し、内部監査員の人数と力量を維持しています。現在はほぼ全ての環境保全管理者が有資格者となっています。

外部審査 (リモート 5/17~19)



内部監査 (12/5~9)



# 4. 環境保全の取り組み体制



## ■ 環境保全活動の力量維持

活動を行う上で必要な有資格者数を把握し、適宜資格取得を推進しています。また、新入社員の受け入れ時や各職位階層に応じた環境教育を実施し、環境保全活動に必要な力量の維持に努めています。

### ● 環境関連の有資格者数（例）

資格名	必要数	有資格者数
公害防止管理者（水質）	2名	11名
“（大気）	2名	6名
“（ダイオキシン）	2名	3名
エネルギー管理士	3名	8名

### ● 環境教育：社員の職層ごとに目的に見合った環境教育を実施しています

職層別	教育内容
新入社員 準社員	社会人としての環境問題と環境保全活動の理解、取り組み
ステップアップ	担当エリアの環境ルールを理解と遵守、改善の実施
職制3級	担当チームの環境全般の知識と異常対応を含む実作業の指導・訓練、評価
職制2級	EMSの理解、環境問題の未然防止の取り組み 法令、社内規定項目の維持管理
職制1級	環境管理の仕組み、ルールの確実な運用指導 課全体の目標を踏まえた改善の企画と推進
基幹職	安全・品質・原価・生産活動への環境保全の織り込み 環境取り組みプランの理解と職場運営の実行

### ● 技術系の特定教育：技術系中心に申請・届出の必要な項目について、法的根拠から教育しています

実施教育名
概要/水質/大気施設
振動/騒音施設
電波/ダイオキシン施設
土壤汚染対策法



### ・ 土壤汚染対策法の届出教育

### ● 講演会：環境意識のレベルアップを目的に、

仕入先(勇豊会)対象の環境講演会を実施しました。

#### 2. 異常、苦情ゼロ活動

**TMHの環境方針** (2021年4月改訂)

『地球にやさしい企業として、一人ひとりが自覚と責任を持ち、環境保全活動に積極的に取り組む。SDGs（持続可能な開発目標）の目標・ターゲット達成に貢献します。』

1. 地球社会とのコミュニケーションを大切に、**北海道の豊かな自然との共生と生物多様性を保つための活動**を積極的に推進します。
2. 環境法令や協定、基準の遵守はもとより、**地球環境の汚染予防及び徹底的な改善**を行い、地域の「アインゴカン」を目指します。
3. 環境影響を最小化するため、**目的・目標を定めた積極的に取り組めます。**  
①工場CO2排出を削減し、**自家発電・設備革新・再生可能エネルギー** 利用を推進し、**省エネ**を推進し、**循環型社会**の形成を推進します。  
②**生産活動の環境影響を評価し、環境負荷物質を低減**します。

持続可能な社会のため絶対に環境を汚染しません

#### 4. TMHの活動事例

仕入先地産油処理施設巡回の実施 実施日：7/12 15（2日）  
清掃参加仕入先稼働：19社

雨水系設備の点検 エコトスランジでの油泥れ処理

シャットアウトゲート操作

資料については各社様にて教育などにご使用いただく旨にてメールを送付。

### ・ 水質環境異常の未然防止



# 4. 環境保全の取り組み体制



## ■活動の定着化

環境保全を全社活動として定着させるため、各種の行事を実施しています。

2022年度は6月に世界環境デーに呼応し、『地球環境月間』の活動を行っています。土壌や水の汚染防止を目的とした油漏れ処置訓練、各自の車両点検、水素自動車や電動車の試乗会を実施しました。

また、北海道の厳冬期にあたる2月には『省エネ月間』の活動を実施しました。役員を含めた全社員での省エネ宣言、各職場の省エネ度合の診断や省エネアンケートを通じて省エネマインドの向上をはかっています。

### ●地球環境月間：2022年6月

水素自動車（MIRAI）  
電動車（C+Pod）試乗会



雨水系環境異常防止訓練 詳細は次ページ



環境講演会（オールトヨタ協調活動）

浄水場汚水・雨水管理状況点検

#### 【演題】

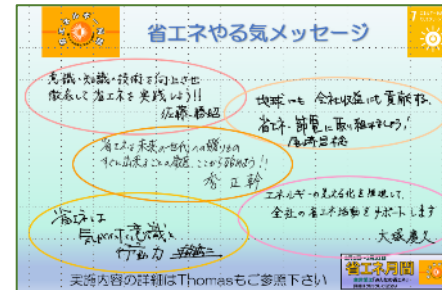
『楽しみながら貢献できる生物多様性保全と企業の責任』  
～気候変動と人口減少が進行する社会での自然共生～

専門家の先生による気候変動と生物多様性、農業の関わりを説明頂いた講演会（オンライン配信）



### ●省エネ月間：2023年2月

エネルギー管理統括者動画メッセージ  
省エネ宣言 やる気メッセージの全社展開



### 環境かわら版も省エネ特集

2・3月は省エネ月間です。環境かわら版No.68は、最近の省エネ事例についてご紹介いたします！

1. 製氷工場 工場空調(暖房)の外気導入量削減、運転台数削減

◆工場空調の仕組み

◆対策のため、外気80%・内気20%Mkdして、冷たい外気を温水で暖めてから工場内へ供給

⇒ 温かくなる空気、送風機AN電力が消費大

◆対策の紹介

◆アンケートの結果

◆アンケートの目的

◆結果の代表例を紹介

①事務所での省エネ意識

②業務での省エネ意識

③実務での省エネ活用スキル

◆お忙しい中ご協力ありがとうございました！

### 省エネ職場診断・チェックポイント

設備の省エネ

安全上電圧切替の設備は

100V電圧も切れる

※22号はゲージ確認が必要でした

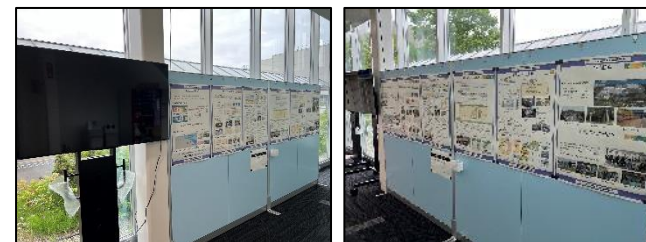
エアは元栓で切る

閉

開

### ●環境CN展示コーナー

6月に当社2号館1階ロビーに環境CNコーナーを常設展示しました。コーヒーを飲みながら気軽に環境の課題がわかるコーナーを目指しています。



合言葉は  
みんなの省エネ！

みんなやるよ！

# 5. 異常苦情ゼロへの取り組み（公害の防止）



## ■ 公害防止訓練

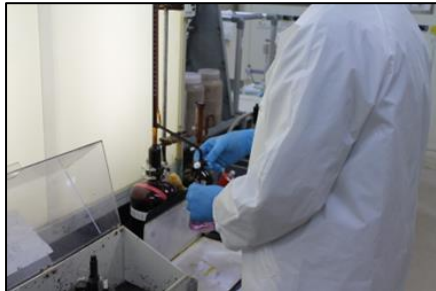
6月の地球環境月間に合わせ、土壌や水の汚染防止を目的とした各種の訓練や通勤車両点検を実施しています。雨水系環境異常防止訓練は2022年度から仕入先、協力会社にもお声がけし、合計16社19名の方に参加頂き、社内の参加者30名と共に「いざ」という時の適切な処置を学んで頂きました。

### ● 雨水系環境異常防止訓練（油漏れ処置訓練）



## ■ 水質管理

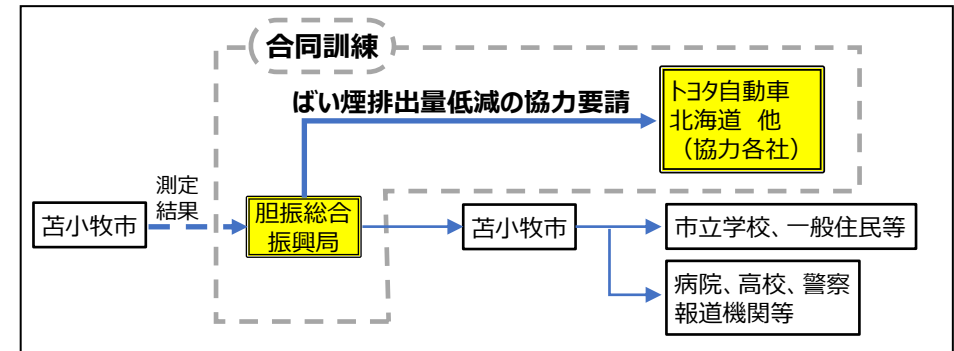
工場で使用した水は自社で廃水処理をしています。処理後放流水の水質（COD、pH）は毎日自社で測定を実施。SSと油分は毎週実施。大腸菌群、亜鉛、鉄、鉛等は月1回の頻度で検査機関で実施しています。



COD：化学的酸素要求量、代表的な水質指標のひとつ  
pH：水素イオン濃度、酸性-アルカリ性の指標  
SS：浮遊物質量、水に溶け切らなかった2mm以下の粒子の量

## ■ 大気汚染緊急時の処置訓練

地域での大気汚染発生を想定し、社内での情報伝達や軽減処置を行う手順を確認するため、毎年処置訓練を実施しています。



## ■ 公害防止協定に基づく測定報告

北海道、苫小牧市との公害防止協定に基づき、定期的な大気、水質などの規制物質含有量の測定結果の報告を行っています。

（2022年度の測定結果はP17を参照ください）

また、関係官庁による立入検査や情報交換を行っています。



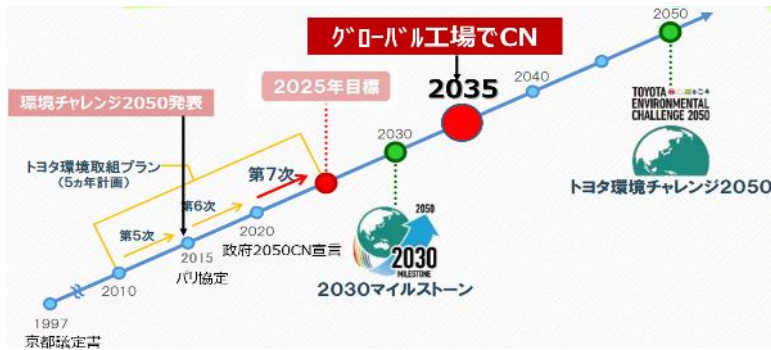
● 合同での現地確認会

# 6.CO2排出量の低減

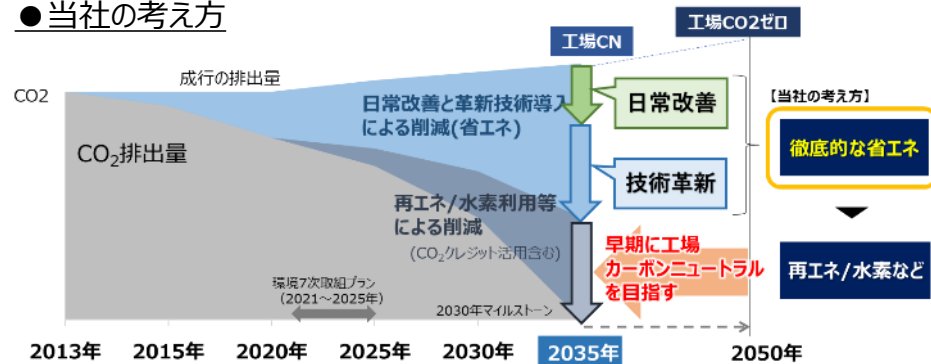
## ■工場カーボンニュートラルへの取組

トヨタ自動車（株）の「トヨタ環境チャレンジ2050」の「工場CO2ゼロチャレンジ」に呼応し、2035年までの工場カーボンニュートラル達成を目指しています。これは生産増加による成行きCO2発生量の増加も含めて、日常改善と技術革新による徹底的な省エネを進めた上で、再生可能エネルギー（再エネ）導入や水素燃料転換、環境クレジットへの投資を最小限にする計画です。この考え方のもと、全社員一丸となって「徹底的な省エネ」に取り組んでいます。

### ●トヨタグループの工場CO2ゼロチャレンジ取り組み

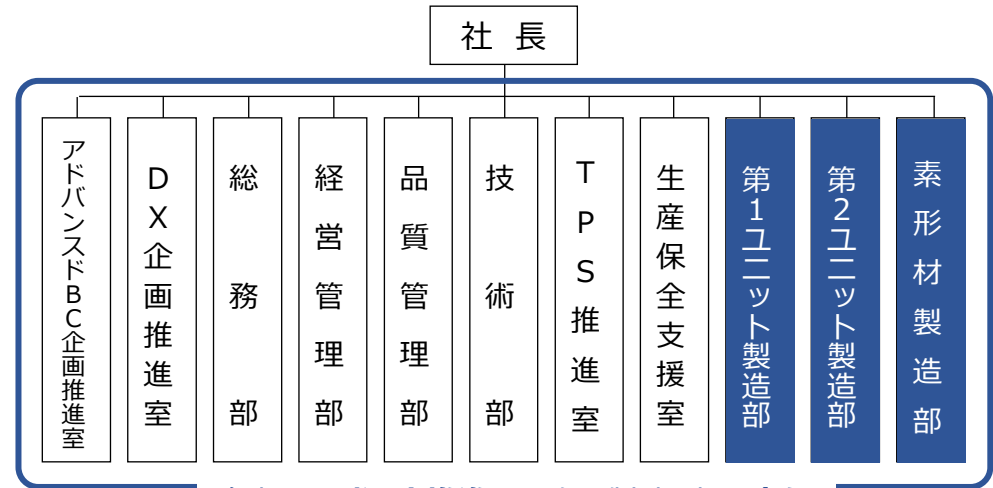


### ●当社の考え方

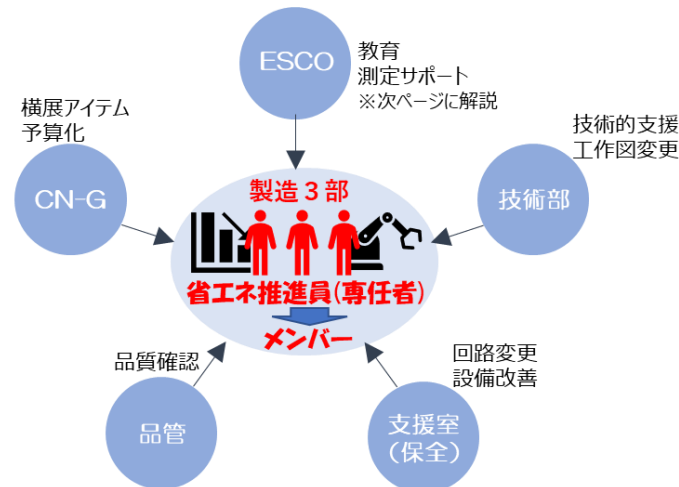


### ●日常改善の体制図

CO2排出量の低減、徹底的な省エネルギーを進める為の活動は下記の体制で行っています。特にその活動が行える人材育成を重視しています。



各部門に省エネ推進員選任、製造3部は専任



環境には、省エネが大事！  
みんなて、覚えて実践だ。省エネ6つの心得



# 6.CO2排出量の低減

## ■ ESCOチーム教育道場の立上げ

2022年1月に省エネ活動支援を目的に発足したESCOチームが中心となり、「徹底的な省エネ」ができる人材の育成を始めました。トヨタ自動車（株）元町工場のESCO道場で学び、その内容を中心に社内教育資料を作成し、教育を開始しています。

2022年度は社内リーダー層約300名の内39名に教育を終了しました。23年度中にはリーダー層全員に教育を終了する予定です。

受講者は職場の中核として、省エネ活動をけん引しています。

※当社でのESCOは「Energy reduction Support Cooperation」の略称



トヨタ自動車（株）元町工場ESCO道場での教育



各課からの受講者へ教育開始

## ■ ESCO省エネ支援活動

ESCOチームでは製造各部の省エネ推進員と協力し合い、改善効果の確認や省エネ点検などの活動も実施しています



- ◆サポート) 計測&分析・改善提案
- ◆先生役) 教育・ツール製作

### 【2022年度 活動の柱・進め方】

- 「エネルギー見える化」 正しく計量・正しく提示
- 「みんなの省エネ」 全員参加/自分事として/当事者意識
- 「教育の充実」 体感機器/測定ツールの整備



省エネ点検の実施  
サポート・改善の提案



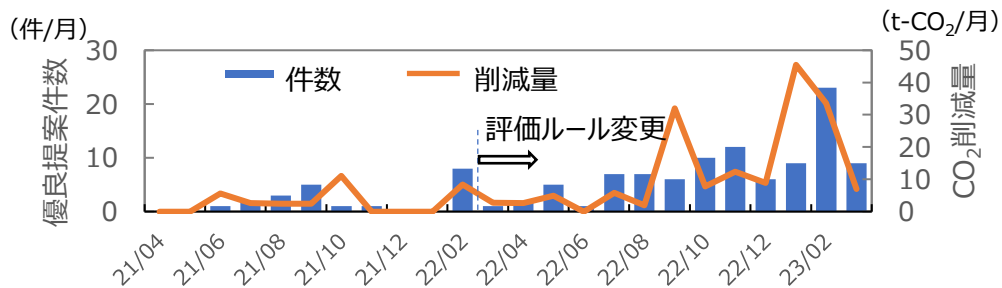
ESCO 土台となる省エネ教育

# 6.CO2排出量の低減

## ■ 創意くふう提案活動の活発化

安全や原価改善と同様、環境に関しても従業員から創意くふうが提案されます。省エネ活動活性化の目的で2022年より社内評価ルールの変更を行い、その定着と共に優良提案件数が増加しています。

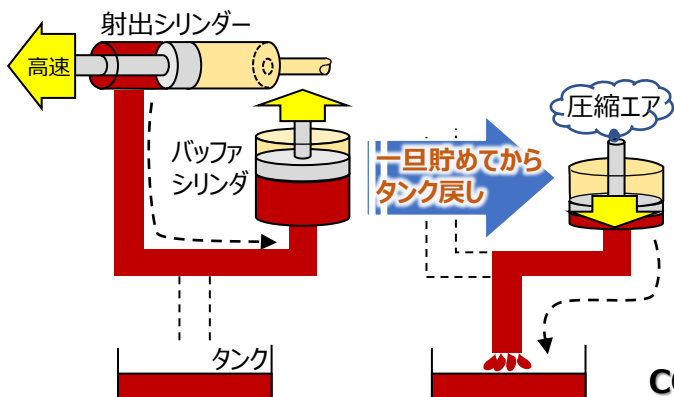
ここでは、2022年度の創意くふう提案の改善事例を紹介します。



省エネ改善の創意くふう提案実績 (優良賞以上)

### ●ダイキャスト機 バッファシリンダリターンエア低圧化 (着眼点：サゲル)

ダイキャスト機の射出シリンダは高速動作させるため、油をバッファシリンダに貯めてから圧縮エアでタンクに戻す機構 ⇒ 油は**1サイクル時間内でタンクに戻れば良い**

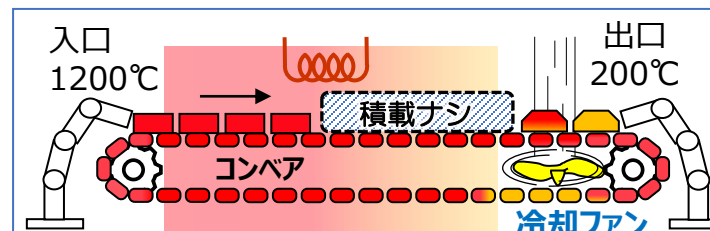


工夫ポイント  
 バッファシリンダは**縦動作**なので自重で下がる  
 バッファシリンダにエア圧力調整器を取付け調整

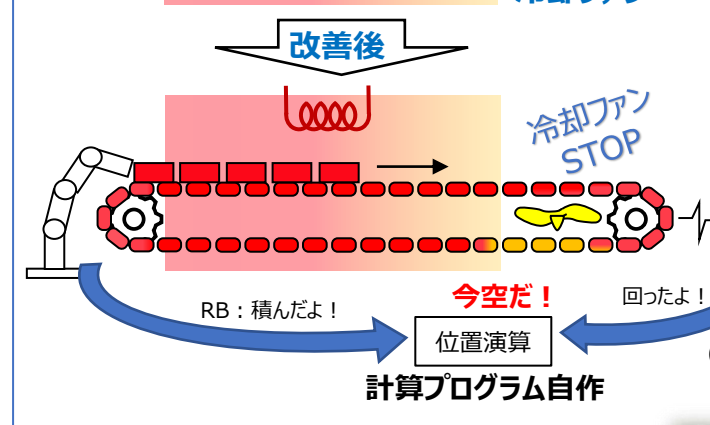
【効果】  
 圧縮エア使用量の低減

CO<sub>2</sub>削減効果：▲24t-CO<sub>2</sub>/年

### ●鍛造焼きなまし炉出口冷却ファンのムダ運転防止 (着眼点：トメル)



コンベア出口で部品を冷やすファンを運転しているが  
**段替で積載の無い区間でも冷却ファンが止まらない!**



工夫ポイント  
 空ワーク検出を考案  
 既存の回転検出の信号を利用

【効果】  
 ファン電力の削減  
 コンベアムダ冷却の低減

CO<sub>2</sub>削減効果：▲89t-CO<sub>2</sub>/年

設備点検中のエアの排気音から無駄があるかもと気付きました。現場の皆さんと少しずつ調整を繰り返して良い条件を見つけ出せ、横展も完了です!



私が考えました!  
 技術部 部品技術室 ダイキャスト設備G 平 大介

私が考えました!

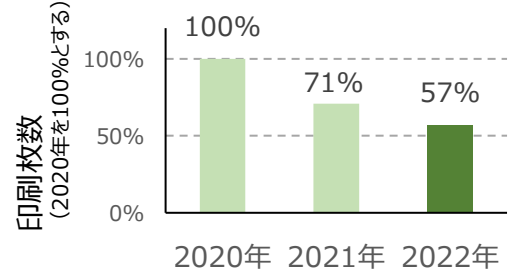
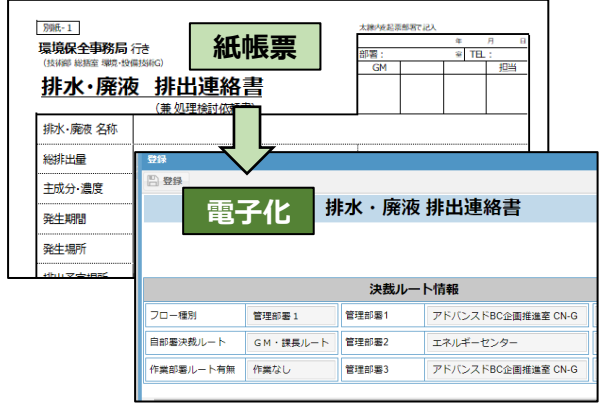


保全作業時に冷却ファンがずっと運転しっぱなしなのを見てムダに気付きました。仲間に協力を貰いながら、正しく動作し、稼働に影響の無いプログラムにするのに苦労しました。  
 生産保全支援室 第2設備課 第3作業係 岩城 旬紀

# 7.省資源・3Rの推進

## ■省資源への取り組み

当社では各種申請書の電子化を進めており、121件の申請がペーパレス化されています。この取り組みにより事務系職場での紙の使用量を2年で半減する事が出来ました。

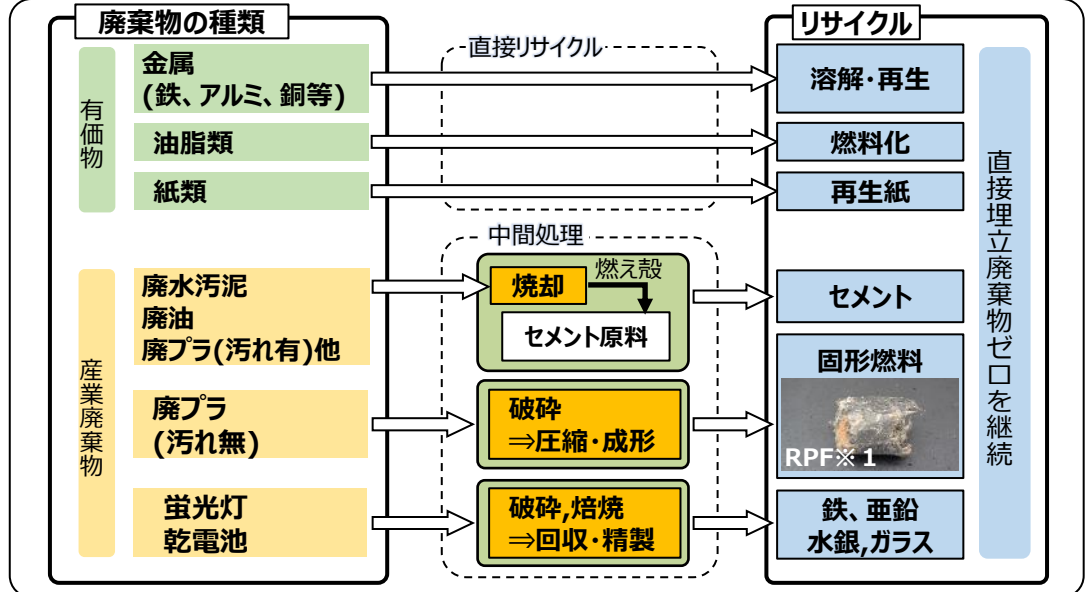


## ■廃棄物低減の取り組み

廃棄物の低減とリサイクル化推進のため、発生する廃棄物は41種類に分別を行っています。工場では写真の様な『エコステーション』を休憩室近くに設け、分別を徹底しています。この活動により分別された廃棄物は、24種類が直接リサイクルされ、それ以外の産業廃棄物は中間処理を経て再資源化され、直接埋立廃棄物ゼロを継続しています。

近隣企業11社が加盟する「苫小牧ゼロエミッションネットワーク」とも情報交換を行いながら、廃棄物低減の方策を検討しています。

## ●当社のリサイクルフロー



※1. RPF: 古紙、プラスチック等を原料とした固形燃料 (Refuse derived paper and plastics densified Fuel)

# 8. 自然・生物多様性の保全活動



## ■ 地域緑化活動

2018年の北海道胆振東部地震では当社周辺の自治体でも山崩れなどの大きな被害が発生しました。2022年度は厚真町有林の手付かずとなっている被災斜面に120名でカラマツの苗木を植林しました。



敷地内『トヨタの森』や原生林の保全活動を通じて生物多様性を学んでいます。



営巣しているアカゲラ

今年も構内のソメイヨシノが咲きました！  
来年は一般公開出来る様に準備中です。

敷地内で保護されたミミズク  
(鳥獣保護センターで元気になりました)



撮影した桜並木の動画が  
QRコードから確認できます

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

# 9. 地域の方々と共に



## ■ 地域カーボンニュートラルを目指した取り組み

### ● ゼロカーボン関連協議会への参加

	名称	役割
1	苫小牧CCUS・ゼロカーボン促進協議会	理事・委員
	同上 水素部会	委員
	苫小牧産業間連携検討会議(NEDO)	委員
	苫小牧カーボンニュートラルポータル検討会議	委員
	ゼロカーボンいぶり@苫小牧	メンバー
2	道庁との勉強会	共同実施
	北海道水素事業プラットフォーム	メンバー
	石狩市REソングリーン水素利活用勉強会	メンバー
3	室蘭市脱炭素社会創造協議会	メンバー
	ゼロカーボンいぶり	メンバー

### ● 近隣企業、自治体との意見交換

域内10社以上の企業や北海道、苫小牧市をはじめとした自治体と意見交換を実施し、課題の共有と連携強化をはかっています。

## ■ 地域美化活動

毎年雪解け時期に通勤道路周辺の清掃活動を行っています。

ボランティア同好会の清掃活動も実施、2022年度は市内6か所の清掃を行いました。



## ■ 地域懇談会

当社の取り組みを知って頂けるよう関係官庁、町内会関係者や漁協をはじめとした地域の皆様との懇談会を行っています。2022年度はオンラインながら3年ぶりに10名のご参加をいただき、当社の活動報告や動画での工場紹介をさせていただきました。



## ■ 津波避難場所の提供

2011年の東日本大震災の津波を教訓に、屋上避難が可能な構造としました。津波発生の際には地域の皆様も当社屋上へ避難が可能です。

(苫小牧市の津波避難ビルに指定されています)



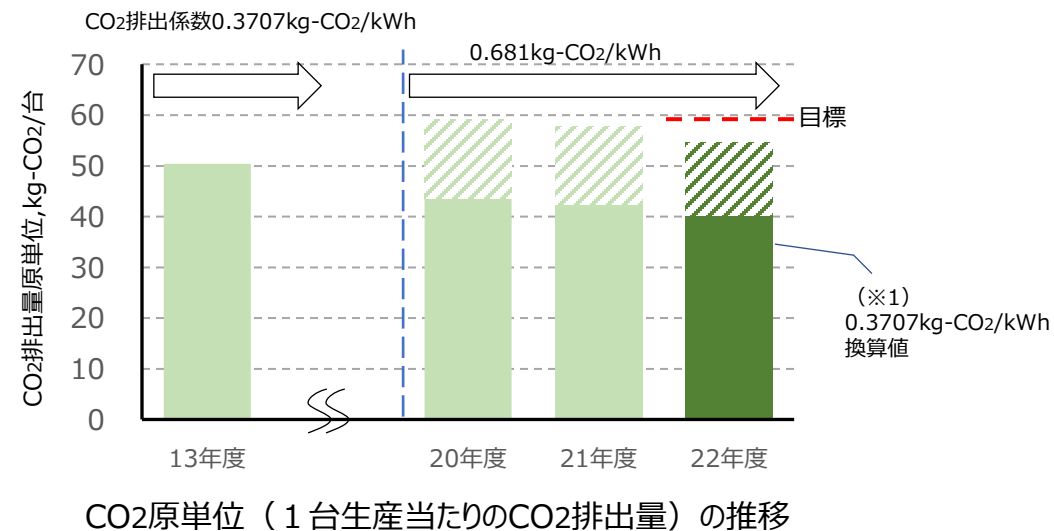
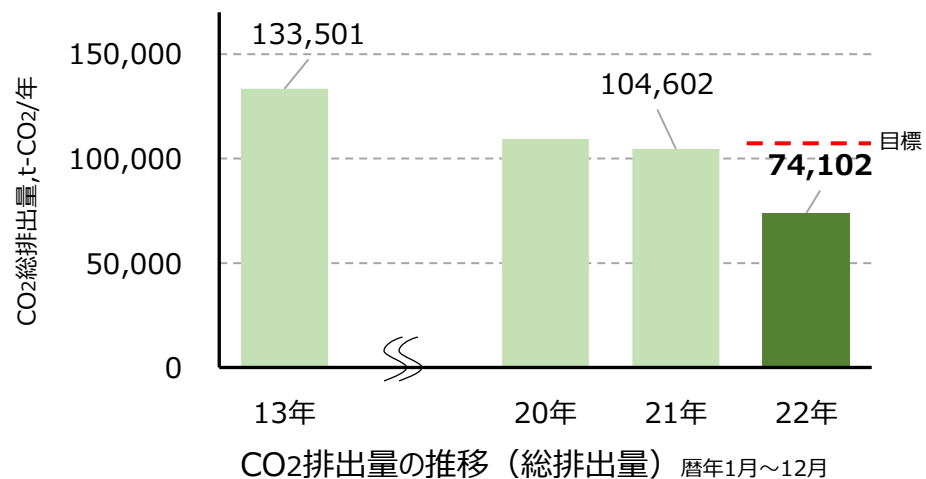


# 10. パフォーマンスデータ



## ■ 2022年度 環境目標と実績

重点実施項目		目 標	実 績	[単位]	目標比	評価	期 間
環境リスク低減	異常・苦情	ゼロ	ゼロ	[件]	-	○	'22/4-'23/3
CO <sub>2</sub> 低減	総排出量	102,552	74,102	[t-CO <sub>2</sub> ]	72%	○	'22/1-12
	CO <sub>2</sub> 原単位	59.35	54.58	[kg-CO <sub>2</sub> /台]	92%	○	'22/4-'23/3
	再エネ率	1.5	1.7	[%]	113%	○	'22/1-12
	物流CO <sub>2</sub>	5.159	4.847	[kg-CO <sub>2</sub> /台]	94%	○	'22/4-'23/3
資源循環	産業廃棄物	0.355	0.337	[kg/台]	95%	○	'22/4-'23/3



※1: 2020年度より計算に使用するCO<sub>2</sub>排出係数を変更しています。  
 このため参考値として元の排出係数で計算した排出量目安を示します。

# 10. パフォーマンスデータ



当社では各種公害防止法や地域官庁との協定値の遵守確認のため、定期的な環境測定を行っています。

## ■ 大気

項目	設備	法基準値	協定値	測定値最大	単位
窒素 酸化物 NOx	炉筒煙管ボイラ	150	120	99	ppm
	小型貫流ボイラ	150	—	32	
	ガスエンジン	600	—	180	
	ガスタービン	70	—	61.2	
	ガス浸炭炉	180	140	137.1	
	アルミ溶解炉	180	140	70.7	
ばいじん	炉筒煙管ボイラ	0.25	0.15	0.0401	g/m <sup>3</sup> <sub>N</sub>
	小型貫流ボイラ	0.10	—	0.0043	
	ガスエンジン	0.05	—	0.0007	
	ガスタービン	0.05	—	0.0026	
	ガス浸炭炉	0.20	0.10	0.0046	
	アルミ溶解炉	0.20	0.05	0.005	
硫黄 酸化物 SOx	炉筒煙管ボイラ	6.42	3	0.37	K値
	小型貫流ボイラ			0.001	
	ガスエンジン			0	
	ガスタービン			0.063	
	ガス浸炭炉			0.11	
	アルミ溶解炉			0.02	

## ■ その他測定

ダイオキシン類（アルミ溶解炉排ガス）、臭気（敷地境界と排水）、地下水質

## ■ 水質

項目	法基準値	協定値	自主基準値	測定値最大	単位
化学的酸素要求量 COD	160 (120)	25 (20)	20	14.3	mg/L
浮遊物質 SS	200 (150)	25 (20)	20	1	mg/L
pH	5~9	6~8	—	6.6~7.4	—
油分（鉱物油）	5	4	—	<0.5	mg/L
大腸菌群数	3,000	—	—	16	個/cm <sup>3</sup>
マンガン	10	—	—	0.1	mg/L

上記以外の項目は不検出 ( )内は日平均

## ■ 振動・騒音

項目	法基準値	協定値	測定値最大	単位
振動	なし	60	47	dB
騒音		60(昼)	54.2	

# 10. パフォーマンスデータ



原材料や副資材等に含有されている化学物質による環境汚染を未然に防止する為、法律に基づく届出を行い、化学物質の購入検討時に有害性を評価する仕組みを構築しています。

## ■ PRTR法対応

PRTR法（※2）に基づき、化学物質の移動・排出量の把握を行なっています。

		年 度		
		2020	2021	2022
物質 取扱量 (kg)	トルエン	740	1,444	1,976
	キシレン	504	981	1,346
	マンガン	521	539	402
	その他	193	289	414

※2 PRTR法：(Pollutant Release and Transfer Register)  
環境汚染物質排出移動登録制度

## ■ 化学物質事前検討制度

環境関連法・安全衛生関連法・消防法等の規制・管理物質を元に納入(使用)禁止物質を定めて、資材購入時に購入可否判断をする仕組みを運用しています。

当社は水資源の豊富な地域で操業を行っているため、濁水等の恐れは少ないですが、将来の水インパクト最小化(※3)に向けて、給排水量の把握を行っています。

## ■ 給排水量の推移

		年 度		
		2020	2021	2022
給水(t)	工業用水	399,142	382,868	351,999
	飲料水	37,033	38,384	33,430
排水(t)	放流水	466,870	464,930	431,922

※3 正式名：水環境インパクト最小化チャレンジ  
「トヨタ環境チャレンジ2050」の6つの取組項目の1つで、海や河川に与える環境負荷を最小化する活動



工業用水ヘッド



飲料水タンク



社外放流口

# 11. 会社概況

## ■ 会社概況

設立：1991年2月8日

資本金：275億円

株主：トヨタ自動車株式会社 100%出資

事業内容：自動車部品の製造

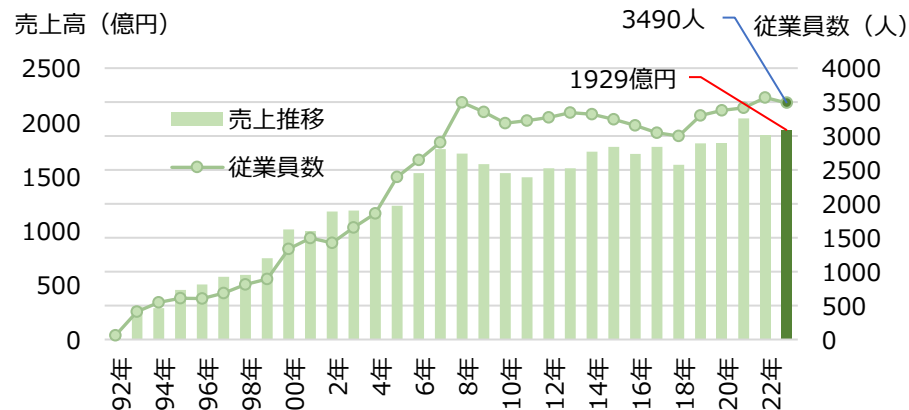
- ・オートマチックトランスミッション
- ・CVT
- ・トランスファー
- ・ハイブリッドトランスアクスル
- ・鍛造部品

売上高：1,929億円（2023年3月期）

用地面積：103万m<sup>2</sup>（約31万坪）

従業員：3,490人（2023年5月1日現在）

## ■ 売上高/従業員数



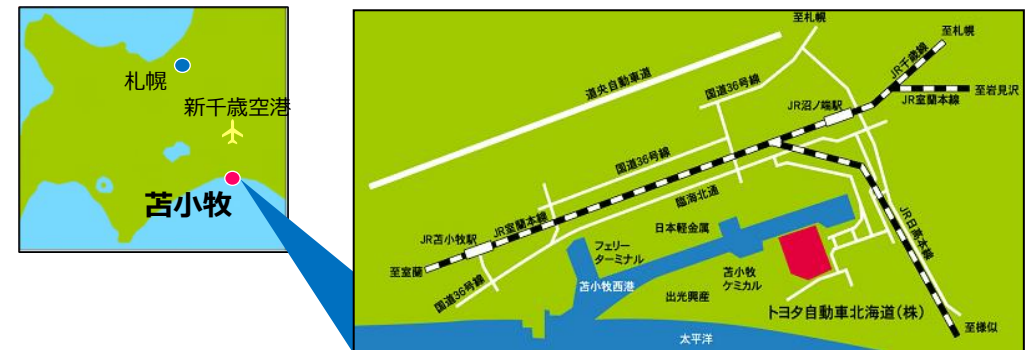
## ■ 工場レイアウト



- 1 第1工場（ユニット加工・組付）
- 2 第2工場（ユニット加工・組付・鍛造）
- 3 第3工場（プレス・ダイキャスト）
- 4 第4工場（ユニット加工・組付）
- 5 第5工場（鍛造）
- 6 本館
- 7 2号館
- 8 原動力棟
- 9 信頼性試験棟
- 10 浄水場
- 11 保安センター
- 12 はすかつぱホール
- 13 トヨタの森
- 14 モノづくり技術センター
- 15 自然林
- 16 はまなすテラス（食堂）
- 17 太陽光発電

## ■ 所在地

〒059-1393 北海道苫小牧市字勇払145番1



# 環境保全の取り組み 2023

—地球にも人にも優しい環境企業を目指して—



環境保全の取り組みは、当社ホームページに掲載しています。

<http://www.tmh.co.jp/>



HOKKAIDO

**トヨタ自動車北海道株式会社**  
TOYOTA MOTOR HOKKAIDO, INC.

発行日：2023年7月

発行元：トヨタ自動車北海道株式会社

北海道苫小牧市字勇払145番1

お問合せ：総務室 TEL 0144-57-2121

編集者：アドバンスドBC企画推進室 CN-G 山形 亮